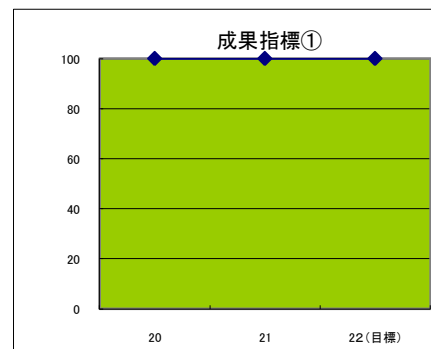
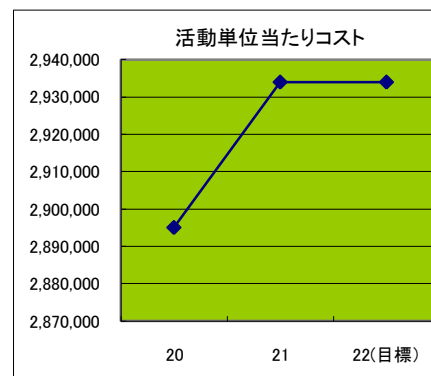


事務事業名		羽曳野市緑の少年団助成事業		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	1	安全・安心、快適で住みやすいまち		款	8	土木費
	施策(節)	10	公園・緑地・緑化		項	4	都市計画費
	施策の方向	(1)	緑地の保全と緑化の推進		目	3	公園費
関連する計画等				事業	1	緑化推進	
作成部署				土木部みどり公園課			
対象(誰を・何を)				連絡先			
羽曳野市緑の少年団				072 - 958 - 1111 内線 2420			
意図(どういう状態にしたいのか)							
緑に親しみ、愛し、育てる事を通じて、やさしい心を持った社会人に成長し将来の街づくりを担う人材を育成する。							
事業の内容							
助成金により以下の事業を展開 ・イベントでの活動PR ・募金活動 ・シロバナタンポポ自生地保全活動 ・花の種配布 ・キャンプ等の野外活動 ・石川竹林整備 ・石川クリーン作戦への参加 ・緑の学習 ・交流活動 ・毎月の役員会議 ・会員構成：小学4年生～中学3年生 ・会員数：団員83名 役員9名(平成22年4月1日現在)							
根拠法令等							
羽曳野市緑の少年団助成交付要綱							
事業開始時期		☐ 昭和 5 年開始 ☐ 明確にはわからない ☒ 平成 ☐ 市制施行(昭和34年)以前より行っている		終了年度		平成 年度	
事業開始時からの状況変化							
市民や議会の要望							
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☒ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 市外郭団体委託 名称() ☐ 民間委託 ☐ その他		委託内容			

区 分		20年度	21年度	22年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		720	684	684
人件費【2】 (千円)		2,175	2,250	2,250
職員数	正規職員	0.29 人	0.30 人	0.30 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.05 時間	0.05 時間	0.05 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		2,895	2,934	2,934
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	2,895	2,934	2,934
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		20年度	21年度	22年度(目標)
① 助成件数	件	1	1	1
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		2,895,000 円	2,934,000 円	2,934,000 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		24 円	25 円	25 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		単位	指標設定の考え方	平成20年度		平成21年度	平成22年度
	①	事業計画達成率	%	助成金の交付により団体の活動がどれくらい活発化されているか	目標	100	100	達成率(%)
		(式) 実施行事数÷予定行事数×100			実績	100	100	100.0%
	②	(式)			目標			達成率(%)
					実績			

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	青少年の健全育成や緑化啓発のアピールなど市に協力して活動する団体への支援は必要である。
								○	○		

分析・評価

視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
妥当性	市民ニーズが高い	☒	☐	☐	活発な事業を展開し団員の育成はもちろん、社会への貢献度が高い団体への助成として妥当である。
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
	社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
	国・府の事業と重複していない	☐	☐	☒	
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	緊急性が認められる	☐	☒	☐	
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	必要最小限の助成金により活発な事業を展開されている。
	受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
	人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
	簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
	市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☐	☒	
有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	少年団の市民へのアピール効果は大変大きい。また、団員の活動が大きな広がりとなり緑化推進への貢献度は高い。
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
	成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
	市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☒	☐	☐	団体が主体的に立案協議し決定した事業を実施している。また、市主催事業の実施にあたり積極的な協力が得られている。
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☒	☐	☐	
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☒	☐	☐	
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☒	☐	☐	
達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	計画通り活発な活動を実施している。
	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	小中学生から緑の重要性を習得し、家族を含めた緑化啓発が図られている。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など)	
行 事 本 部 評 価	引き続き活動の活性化に向けて支援する。	
	総合評価 評価理由・意見 ☒ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	